

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 480

事業名	人間ドック補助金		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	健康福祉部	健康課		款	衛生費・4款
電話	0799 - 44 - 3004			項	保健衛生費・1項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)	目	健康づくり推進事業費・3目	
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務		南あわじ市人間ドック補助金交付要綱		
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	安らぎづくり_元気あふれ_住んで快適なまちづくり_			
	まちづくりの目標	延ばせ健康寿命_【健康】			
	施策目標	健康増進や予防などに関する意識を高め、信頼性の高い医療・救急医療が受けられる仕組みを整える			
該当する事業について「 」を選択		施策的事业	業務委託	負担金補助	

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	対象(誰を・どのような状況の人に)	
		満40歳以上の市民	対象人数(人) 17,866
	意図	(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)	
		南あわじ市民の健康づくりの意識高揚及び生活習慣病の早期発見と予防を図ることを目的とする。	
	実施内容	(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)	
		申請日において、引き続き1年以上市内に居住する者 申請日において、満40歳以上の者 加入する医療保険において、助成制度のない者 市が実施する町ぐるみ健診を受診していない者等の全ての要件に該当する者が、医療機関で実施する人間ドックを受診する者に対し、その費用の一部を助成する。具体的には、算定基準額(1日人間ドックの場合...40,000円、2日以上人間ドックの場合...60,000円)と受診費用とを比較して、低い額の3分の2の額とする。ただし、助成の対象となる検査項目は、市が実施する町ぐるみ健診に準ずるものとし、毎年度1人1回限りとする。	
	背景	(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)	
	町ぐるみ健診未受診者の健康診査受診費用を助成するために実施。また、町ぐるみ健診は1年のうち、7~8月の18年度:26日間、19年度:24日間であるが、人間ドックは個人の予定に合わせて受けることができる。		
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 ()	
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 17 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし	
合併協議事務調整内容	(合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯)		
	<input checked="" type="checkbox"/> 旧緑町	<input checked="" type="checkbox"/> 旧西淡町	<input checked="" type="checkbox"/> 旧三原町 <input checked="" type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input type="checkbox"/> 新市から
	【旧緑町】	2時間人間ドック助成	対象者:40歳、45歳、50歳、55歳、60歳
	【旧西淡町】	2時間人間ドック助成	対象者:40歳以上の住民健診受診者以外
		助成額:6,000円	平成13年で事業廃止
	【旧三原町】	2時間人間ドック助成	対象者:40歳以上の住民健診受診者以外
		助成額:7,280円(自己負担8,000円)	
		いきいき人間ドック助成	対象者:40歳、50歳、55歳、60歳
		助成額:30,000円	
		65歳の方で勤務先で人間ドックの助成がなく、住民健診を受けない方	
【旧南淡町】	2時間人間ドック助成	対象者:住民健診受診者以外	
	助成額:40歳未満 5,000円	40歳以上 7,000円	
	人間ドック助成	対象者:40歳以上の国保加入者で、住民健診及び2時間人間ドック受診者以外	
	助成金:実質の2/3と次の金額の少ない方の額		
	半日...20,000円 1日...40,000円 2日以上...60,000円		
	国保で制度あり		
	(調整方針)		
	2時間人間ドック助成については、旧南淡町の例により実施する。旧南淡町の制度を基本に、対象を40歳以上とし、一般事業として新市で実施する。助成対象検査項目は要綱による。		

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	人間ドック受診者数	指標単位 人			
	指標説明 (指標算出方法等)	人間ドック受診者で、助成金を交付したもの				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	40	38	40	-	
	実績値	38	40	39	-	
	達成度 (%)	95.0	105.3	97.5	-	
目標値設定の考え方	前年度の人間ドック受診者数					
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	人間ドック受診者数	指標単位 人			
	指標説明 (指標算出方法等)	人間ドック受診者で、助成金を交付したもの				
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	目標値	40	40	40	-	
	実績値	38	40	39	-	
	達成度 (%)	95.0	100.0	97.5	-	
目標値設定の考え方	人間ドック受診者数					
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
	直接事業費 (千円)	993	1,122	1,020	0	
	人間ドック補助金	993	1,122	1,020	0	
	財源 (千円)					
	国					
	県					
	起債					
	その他					
	一般財源[A]	993	1,122	1,020	0	
	人件費(正規職員)[B] (千円)	117	120	117	0	
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1		
	事業量1(事業に要した日数)	38	40	39	0	
事業量2(事業に要した人数)	0.1	0.1	0.1	0.0		
年間経費([A]+[B])	1,110	1,242	1,137	0		
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.1	0.1	0.1	0.0		
受益者人数(40)1人当り経費(千円)	27.7	31.0	28.4	0.0		
経費に関する補足説明						

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

達成度	活動結果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
		%	95.0	105.3	97.5	-		
<p>(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。)</p> <p>地域間で人間ドック受診者数に偏りがあった。また、毎年決まった人が人間ドックを受診している。 (受診者総数40人中、緑：3人、西淡：4人、三原：4人、南淡：29人)</p>							2	
有効性	成果指標目標達成度	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度		自己評価 (5点評価)
	成果向上率	%	-	5.3	2.5	-		
	<p>(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。)</p> <p>平成18年度では、胃がん検診で12名に、肺がん検診で3名に何らかの異常が発見された。また、高脂血症が10名、高血圧症が2名、貧血が2名見つかった。</p>							
効率性	活動実績1単位当り経費	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	自己評価 (5点評価)	
		千円	29.2	31.0	29.2	-		
	効率性増減率	%	-	6.3	6.0	-		
<p>(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。)</p> <p>受診者1名あたりの経費の大部分が助成金であるため、コスト削減は困難である。</p>							2	
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input checked="" type="checkbox"/> 低				自己評価 (5点評価)
	<p>(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。)</p> <p>市が実施している町ぐるみ健診未受診者に対して、受診費用を助成することで経済的な負担軽減を図る。 平成19年度からは、基本健診(70歳以上のみ)と肺がん・結核検診を除く全ての健(検)診において個人負担金を徴収していることや、平成20年度の医療制度改革により健診のスタイル(健診の主催者や検査項目等)が変わることから、人間ドック補助金交付要綱を見直す必要がある。</p>							
総合評価	自己評価をふまえた現状分析		<p>定期的に健診を受けることで、健康管理への意識高揚、疾病予防、疾病の早期発見・治療につながる。人間ドックには、助成金の対象とならない項目でも町ぐるみ健診では受けられない検査も同じ日に受けることができたり、受診時期も自分の都合に合わせてできるという利点がある。</p> <p>しかしながら、市が実施している町ぐるみ健診も検査内容は充実しており、健診の事後指導にも力を注ぎ疾病予防、疾病の早期発見・早期治療、住民の健康管理に寄与している。町ぐるみ健診と本事業は重複しており、町ぐるみ健診を推奨することからも、来年度は本事業の見直しが必要である。</p>					<p>評価グラフ</p>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	平成20年度に施行される医療改革制度により健診のスタイルも変更する。これに伴い、本事業は手法見直し・廃止する方向で検討する。	
(現状維持以外の改善方法)	住民の方には町ぐるみ健診をPRし、できるだけ町ぐるみ健診を受診していただくように勧め、健診受診の機会と提供することで理解していただき、自分の健康を管理できるように支援していく。	
改善によって期待される効果	効果(アウトカム)面	効果(アウトカム)面
	町ぐるみ健診を奨励し、できるだけ町ぐるみ健診を受診していただき、健診事後指導にも重点をおくことで、自分の健康を管理できるように支援していく。	
	コスト面	コスト面
公費負担が減額される。		
(現状維持の場合も記入)	仮に 事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面) 公費負担が減額される。 人間ドックを毎年受診し、助成を受けていた方には経済的な負担となる。しかし、町ぐるみ健診を受診することで、その負担も軽減される。	